

式辞

寒暖を繰り返しながらも、木々の新芽のふくらみを目にし、小鳥のさえずりを耳にする機会が増えるこの季節は、新しい生命の息吹と春の訪れを感じることができます。

この佳き日に、同窓会長 福田謙一郎様、PTA会長 新井広宣様、学校評議員で同窓会副会長である 杉山英一様を始め、多くの御来賓と保護者の皆様方の御臨席を賜り、群馬県立高崎東高等学校第三十八回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、私ども教職員一同の大きな喜びであり、心より厚く御礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました第三十八期、百五十一名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが所定の課程を修了し、本校を卒業することはこの上ない喜びであります。そして今日までお子様を様々な面で支えてこられた保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんが高東の校門をくぐったあの日から、早三年が過ぎようとしています。当時は前年より始まった新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、「ウィズ・コロナ」と呼ばれる日々でした。昨年の五月に新型コロナウイルスは季節性インフルエンザと同じ部類に移行し、今は「アフター・コロナ」と言われるようになりましたが、皆さんが過ごした高校三年間は、やはり特殊な三年間となってしまいました。しかしそのような環境の中で、皆さんは高東、さらには群馬県下の高校生としても初めての経験をしました。県から貸与された端末を三年間フルに活用したのは皆さんが初めてです。二年生の時に経験した第十三回青翔祭は、どうしたら衛生的なイベントにすることができるかを皆で考え、切符制や午前・午後入れ替え制を本校で初めて導入した文化祭となりました。旅行から帰ってきてから一部で発症が見られたのは致し方ないとしても、保険の加入や感染症対策を入念に施すことによって、コロナ禍でも飛行機を利用した修学旅行が可能であることを実証したのも、皆さんが本校では初となります。

将来、皆さんを含むこの世代の人々は、「コロナ世代」等と揶揄されるかも知れません。しかしこのパンデミックを経験したことにより、各自の間に得意・不得意の差はあるにせよ、どの世代よりもデジタル機器の活用に慣れ、リモート型の参加形態を実際に経験し、衛生面に配慮した生活を送ることに慣れた世代となりました。これは皆さんの強みであります。多くの情報をインプットできる高校生の時代に、今後の社会で必要とされるスキルを身に付けた皆さんのストロング・ポイントです。自信をもって天翔けて行ってください。井野川の畔に芽吹いた萌黄色の新芽達は、かくも濃い緑色となり、今後も利根の沃野に根づいた文化を担い、校樹である樺のごとく更に大きく成長していくでしょう。これからの皆さんの人生に幸多かれと願う次第です。

本日はこのように成長した卒業生の皆さんとお別れをする日ですが、我々は皆さんと共にもう一つお別れするものがあります。それは皆さんが来ている制服です。校長室に保管されている本校の『創立三年の歩み』という冊子に、「女子制服の型については、寒暖に対する対応機能の面及び衛生面からブレザー型にすることに決定した。昭和五十八年十二月二日のことだった。男子制服については学校長・教頭の間で言わず語らずのうちに詰襟金ボタン型採用で気持ちに通じており、これを昭和五十九年一月十日に正式に決定した。」との記載があります。そして昭和五十九年、西暦一九八四年四月、入学してきた第一期生が着用して以来四十年、このブレザーが、この詰襟金ボタンが、高崎東高校の制服として続いてきました。その制服も本日で見納めと思うと、この卒業式も過去の高東の卒業式とは違って見えてくる所があり、感慨も一入になります。昨年挙行された創立四十周年記念式典で作成された記念品の一つにクリアファイルがありますが、キャラクターに新旧の制服を着せたデザインとなっています。高東四十年の集大成と高東の今後の発展を期したものです。卒業生の皆さんは、これまでの本校の教育の集大成であり、今後の「高東」の発展の礎や繋ぎとなるものです。どうか、高東の節目を飾る学年である、という誇りを持ってください。我々職員一同は皆さんが高東に来てくれて、そして卒業してくれたことに心より感謝します。本当にありがとう。

結びになりましたが、保護者の皆様、春秋三年の間にわたり、本校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。本日をもってお子様は卒業いたしますが、今後も「高東」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

そして繰り返しになりますが、卒業生の皆さんの今後の更なる飛躍と活躍、そして幸多き人生を送られることを願い、第三十八回群馬県立高崎東高等学校卒業証書授与式の式辞といたします。

令和六年三月一日

群馬県立高崎東高等学校

校長 関口 俊邦